

# プラスチック取扱い事業者へのヒアリング結果

資料 2-3

ヒアリング対象：県内本社・工場があるプラスチック製造事業者及びリサイクル事業者

ヒアリング項目	ヒアリング結果	今後の施策
石油系プラスチック製品に係る代替の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスプラスチックの製品はあるが、原料が高いため、製品の販売価格が高くなる。販売先からは「安いもの」が求められている。</li> <li>・石油由来プラ代替製品については、商品群を増やすなど積極的に取り組んでいる。</li> <li>・バイオプラスチックに関しては特定のお客様向けの特定の商品には使用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)-⑨ 石油由来プラスチック代替製品の利用促進</li> <li>(1)-⑩ グリーン購入の推進</li> <li>(1)-⑪ 環境教育・環境学習の推進</li> </ul>
代替できていない製品における代替の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズがあれば製造可能。</li> <li>・バイオ素材ということでお客さんが買ってくれればいいが、まだまだそこまで至っていない。</li> <li>・バイオ素材では商品化するに当たって必要となる品質（要求物性）を満たさないものもある。</li> <li>・代替製品の可能性としては、まずは①コスト、次に②物性が大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)-⑨ 石油由来プラスチック代替製品の利用促進</li> <li>(1)-⑩ グリーン購入の推進</li> <li>(1)-⑪ 環境教育・環境学習の推進</li> </ul>
リサイクル等における取り組みや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーやペットボトルは、リサイクル可能なプラスチック。</li> <li>・他の材料を入れず、単一素材で作っている（複合が無い）ことがマテリアルリサイクルにつながる。</li> <li>・リサイクルのためには、単一素材化すること。しかし、複合素材化することによっていいものを作ってきた。</li> <li>・効率的な資源回収には、①リサイクルしやすい設計、②適正な分別排出が重要。</li> <li>・バイオプラスチックの仕分けは簡単には無理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2)-⑤ 小売店等における資源物の回収拠点に関する情報提供</li> <li>(2)-⑥ 製造者が実施する使用済み製品の回収に関する情報提供</li> <li>(2)-⑦ 市町村の分別ルールに従った丁寧な分別を推進</li> <li>(2)-⑧ リユース・リサイクル可能なプラスチック製品のデザイン推進</li> </ul>

# プラスチック取扱い事業者へのヒアリング結果

ヒアリング対象：県内本社・工場があるプラスチック製造事業者及びリサイクル事業者

ヒアリング項目	ヒアリング結果	今後の施策
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率的な回収のためには、どこへ持って行ったらいいのか仕組みづくりや有効利用の意識付けが大事。</li> <li>・ 日用品の回収・リサイクルを推進するためには、製品よりも回収する仕組み（B to C）が重要では。</li> <li>・ 徐々にリサイクル需要は増加していると考えている。PP、PEといった単一素材を使用することで、リサイクル製品に製造し直す需要が増加している。</li> <li>・ 廃棄物処理等に係る好事例、先進的取組などの情報共有できる場などがあれば良い。</li> </ul>	<p>(2)-⑤ 小売店等における資源物の回収拠点に関する情報提供</p> <p>(2)-⑥ 製造者が実施する使用済み製品の回収に関する情報提供</p> <p>各主体の連携強化 プラスチック資源循環のための会議開催</p>